

SSKR

2023.11.No.419

# 障害児を普通学校へ

Japan Alliance for Inclusive Education

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-8-7 楽多ビル3F

<http://www.zenkokuren.com>

郵便振替口座 00180-0-73366 年会費4千円



【障害のある子の就学・入級など相談受付中!】

TEL 03-5313-7832、FAX 03-5313-8052

メール [info@zenkokuren.com](mailto:info@zenkokuren.com)

電話の時間は  
巻末の事務局カレ  
ンダーを参照

## 第21回全国交流集会報告

障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会広島実行委員会

事務局長 和田明

第21回「障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会」は、9月17日～18日の2日間、広島市内において開催し、無事終了することができました。不慣れた実行委員会故、行き届かないことも多々あったと思いますがご容赦ください。開催に当たって、準備段階からの助言を含めてご協力をいただいた全国連運営委員のみなさん、発題者という大役を担っていただいたみなさん、そして何より県内外からご参集いただいた参加者のみなさんに、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。また、後援や賛同広告・カンパという形で支援していただいた各団体、個人の方々にも、この場を借りてお礼を申し上げます。

今集会の参加者は、講演とパネルディスカッションをメインとした1日目全体会が246名(オンライン参加を含む)、5つの分科会が持たれた2日目(同じくオンライン参加を含む)となりました。受付に多少の漏れもあると思いますが、ざっとですが2日間を通して、のべで約500名の方に参加していただいたこととなります。広島実行委員会の予想と期待を上回る規模となりました。

さて、集会ですが、1日目全体会で講演いただいた藤山節子さん、娘さんの世子<sup>せいこ</sup>さんは、90年代広島の「0点でも高校へ」闘争の体現者ですが、節子さんの話の中に折々出てくる、世子さんなりの差別への向き合い方や抵抗の仕方のくだりは、障害者解放運動の主体はあくまで障害者なのだという、自明の理<sup>ことわり</sup>を再確認させてくれました。

また、今回のパネルディスカッションのパネラーは、広島の共育・共生運動の歴史の証言者と今を歩む保護者という組み合わせでした。同じ広島とは言いながらおよそ40年

に及ぶ運動の歴史の中ではなかなか出会うことのないメンバーでしたが、その思想や願いの原点は時を経て変わらぬということは心強い発見でした。広島でこの集会を持ったことの意味を強く感じた時間となりました。

この1日目の講演とパネルディスカッションを詳述する紙面はありませんが、実行委員会では1日目全体会のダイジェスト版をYouTube配信していますので、ぜひそちらをご覧ください。

講演「学校教育に何を求める？～イヤな事にイヤと言える力～」  
パネルディスカッション「共に生きるって？～子どもの出会いから始まるもの～」

<https://youtu.be/LTWE7i0o3m8>  
この1日目の取材をした中国新聞も、後日、記事を掲載してくれました。私たちの意図を汲んだ良い記事だったと思います。また、記事掲載当日の朝、RCCラジオの番組でもパ

## 障害ある子も普通学校へ

### 広島で集会 当事者の思い

障害の有無を問わず子どもたちが共に学ぶ「インクルーシブ教育」。世界で浸透する一方、日本では障害のある場合は特別支援学校・学級で学ぶことが多い。普通学校を選んだ障害者や保護者はインクルーシブ教育にどんな思いを持っているのか。今月中旬、広島市であった「障害児を普通学校へ・全国連絡会」の集会で、パネル討論に参加した2人の声を聞いた。(衣川圭)

### 人に頼らないこと 自立だと思ってたけど…



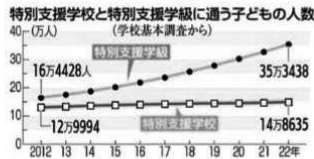
パネル討論で発言する高松さん (広島市南区)

高松豊さん (48)  
広島市安佐南区  
全盲で中3から普通学校に通い、広島で初めて点字受験で高校進学

普通学校から地域の中学校に転校して間もない頃、体育の授業後ケラウンドに取り残された。これに校舎に戻れんと思っ、前から足音を立てきた女子生徒に頼んで教室に連れていってもらった。「どこに何があるかよく分かるんだ」と言われ、「聞きやあやまじやん」という答えが返ってきて、聞けばいいんだと納得した。

藤学旅行先でつえを持ってお土産を買いに行こうとしたときは、同級生が「土産を持ってんじゃう。わらわらおひげつえ置いていけ」と言われた。普通学校では「人に頼らず歩きたい」と教わり、人頼みにせず自分やもてが自立だと思っていた。でも違った。人間関係を築くことが、自立する上で一番大事なんだと級友たちが気付かせられた。

街中に出て友達と通遊したい一心で一人でバスに乗るが、できなかつたことが「関係性の力」でできやうになる経験は何度もした。一次、今の日本の障害者を分ける教育は「障害を克服しなければいけない。そのためには個性を犠牲にしない」という考えではないか。でも結局、いろんな人を誰にも頼らずにできるようなことも、社会とのつながりが壊れていたら意味がない。障害があってもなくても、人は生き合って当たり前なんよと伝えた。



### 分離教育 国連から改善要請

国連の障害者権利条約に盛り込まれているインクルーシブ教育。同じ場で学ぶことで、人間の多様性を尊重して認め合ったり、障害者の社会参加が進んだりすることが期待される。実現に向け、障害に応じた「合理的配慮」が必要となる。

日本政府も障害者権利条約を2014年に締結している。だが、国連の障害者権利委員会から昨年9月、障害のある子どもが分離された場で学ぶ「特別支援教育」をやめよう、動きを受けた。通常学校が障害児の入学を拒めないうえに、通常学校も強要された。

動き出時の水岡桂子(文部科学相)は「多様な学びの場で行われる特別支援教育を中止することは考ええない。動きを踏まえインクルーシブ教育を推進する」と述べている。

### インクルーシブ教育と日本の動き



### 学んでけんかして その先に共生

障害のある小学生の息子が普通学級に通う  
保護者女性  
広島市

息子は普通学級で同級生たちと楽しく遊んでいる。この間にかつらなカタカナをだれを垂らしたらしく、その子がとても嫌がっていたと聞いた。拭くんは「どうも、やらなかつたけど、ある日、外出先で息子がゲットからハカチを取り出して自分だけでそれを扱っていた。親が言っても聞かないけれど、子ども同士でやりとりから学んで、考えているんだなと思った。大学の相談機関では、好きなことに夢中になることが発達に前向きに影響すると学んだ。2年生の時、動物の好きな息子と一緒に動物の研究をし、動物園の飼育員との交流もした。

最近では「好きな人誰か」という小学生らしい会話に、息子も入っていると知ってすぐく面白かった。妹は今は大人になつていきなり表現できるわけではない。子ども同士では嫌んだり、学んだり、時にはけんかをしたりするさやかなやりとりの延長線上にあると信じている。だからインクルーシブ教育は大切なのだと思う。子どもの無限の可能性を信じて、一緒に前進してもらえたらうれし

ソナリテイがこの記事を読み上げて紹介していました。

2日目の分科会については、各分科会報告に譲ります。各報告にある今後の課題や行動提起が、これから全国で展開されていくことを願います。分科会で報告していただいた発題者の、より詳細なレポートを掲載した集会当日配布の資料集も、残部を有料（送料込み1部500円）で販売していますので、希望があれば広島



全体会講演



当日配布の資料集

実行委員会事務局 (hiroshimaincl@gmail.com または090・6411・9050藤山) まで連絡してください。

前述のYouTube配信も含め、こうした広島実行委員会からの情報は、随時Facebook「第21回障害児を普通学校へ」全国連絡会全国交流会広島実行委員会」<https://www.facebook.com/hiroshimaincl>で発信していますので、こちらもチェックしてみてください。

## もくじ



巻頭	
第21回全国交流会報告	1
第21回全国交流会・分科会報告	
第1分科会 小学校就学に向けて、 ご自身の準備と取り組みを しますか	4
第2分科会 学校での「おもしろい」「楽しい」「くやうい」etc.いろんな話を 聞かせてください	6
第3分科会 高校でも、普通に一緒に学びたい	8
第4分科会 自分らしく生きてます！	10
第5分科会 国連動生をこれからの運動に どう活かしていくか	12
●「相談から」コーナー 就学支援シートは出さなければ いけませんか？	15
各地の集会・相談案内	16
●本の紹介 『「市民活動家」は気恥ずかしい — だけど、こんな社会でだいじょうぶな〜』	16
事務局から	17